

半四郎

私も連中れんちゆうにはござんせよ

思ひますしかし女だててら

いらぬ事と

おもひ升

大まごひ

こつこつても当りは

はずさぬ大まごひ

何れいづをさまが

御おんそんじだおま衛えに

負まけてはなりません

訥升

かよわき私わたくしが首くびにかけ引紐

さへも御おんひいきの力ちからにすがりて

かつて見みせます

娘

親方おやぢさん私わたくしがすけるから

しつかりなさいますしアレサさんや

もつと力をおだしなねへ

高たかわい

中村なかつむらさん又

負まけて翫あそばを

おこつなねな

團十郎

名を告ぐるがす

雷でそれを呼びよせしよ

私しほほむが

おれます

雷電

イヤ、時々の

役からとごふ其

しこなしながく

わたしはおよほめ

いじりいす

おさささ

イト私しはあんまり力を出して

いきんだらおなうがでした

いんだしへでは

いせりません

是がほんの引だしへだ

しやちの

しやちばつてもおちきとるぞ

左團次

さだんじ私もかつ

つもりだ

三十郎

はんじやくさん今中入だから

ちつとちおまちなさとい

ばんじやく

三がい松まじのえだに

壹いちばん引ひかけよぶが

中蔵

佐のみ

力ちからはなかくつぶと

おもつたが年としがよつた

せいかほねが

おれます

佐の山

中蔵さんなか／＼おいらも

ほねがおれます

あさひだけ

こぶして又また花はなかたのお方かたは

おいらなんぞとちがつて

御おひいきの御力ちからが

かくべつあります

かんじやく

関取せきとそれしやあんまり

高たかまんが高砂たかさだせ

げいしやく

関取せきとさん向むかひにも

大たいそぶひいきの力ちからが

ありますぞへ

私もてつだう

からまげさち

いけま

へんよ

あやせ川

首に綾瀬の

引あひとほじこじは

よじぢぢ

おもじろこ

芝かん

祇園守を

神かけて私も

かたなきや

なりません

宗十郎

あさまの登る

嶽／＼くく

おま衛の力に及ません

こじこ筆おなじみもない

私だから

吉六

親方

そんな事をいはずと首を

しやくりあげなせい

私の顔かほのよぶに

菊五郎

かさね

扇あふぎの又またかさねて

こんども私はかつ

つもりだ

小柳

ちからも小柳こやなぎにだして

いりやアつけあがるわい言はな

こんどは言いひしひるんぞや

彦三郎

関取せきとさんとまわしにあらぬ

かけひもで言はなこんぞ

とりましてふが

さかい川

おとに聞きた音羽屋ねわやさん

何れも様さまが御ぞんじだから

勝負しやうぶするには及ありません